

2011年7月21日

東日本大震災**[NGO シェア] 保健医療支援 報告会****緊急から復興フェーズへ 保健医療 NGO に求められる役割****2011年7月24日(日) 14:00~**

1983年より海外及び日本で保健医療支援活動を行ってきた国際保健NGO シェア=国際保健協力市民の会(東京都台東区 代表理事 本田徹)は、東日本大震災 保健医療支援 活動報告会を開催します。

シェアは3月11日の地震発生後、医療従事者を宮城県名取市に派遣し、24時間体制で診療活動を行っていた地元医院の支援などを実施。その後、宮城県気仙沼市で孤立しがちな在宅避難者を対象とした保健支援を開始し、現在は仮設住宅や小規模避難所を訪問し、健康相談などの支援活動を行っています。

緊急時から復興フェーズへ刻々と変わる現地のニーズや、高齢化率30%という被災地の支援ニーズにどのように応え支援を展開したのか、行政や地元介護事業者、他県医療支援チームとの連携について、被災地においてNGOに何が求められたのか。本報告会では、保健医療NGOの視点から緊急支援について報告するとともに、孤独死や自殺が課題となる今後求められる支援についてお話をいたします。

----- 記 -----

タイトル : 東日本大震災 保健医療支援

—緊急から復興フェーズへ 保健医療 NGO に求められる役割—

日時 : 2011年7月24日(日) 14:00~16:00**会場** : ビジョンセンター日本橋 504号室(東京都中央区日本橋室町1-5-3 福島ビル5F)**参加費** : 無料**定員** : 60名(要申込)**申込先** : シェア=国際保健協力市民の会**スピーカー** : 沢田貴志(シェア副代表理事、港町診療所所長)

仁科晴弘(シェア理事、江東病院 医師)

大木幸子(シェア気仙沼プロジェクト担当保健師、杏林大学保健学部教授)

尾崎里恵(気仙沼プロジェクトコーディネーター、保健師)

森下絵理(訪問看護ステーションコスモス 看護師)

(特活) シェア=国際保健協力市民について

医師・看護師が中心となり1983年に結成され、海外・日本で活動する保健医療NGO。阪神淡路大震災(95年)、新潟県中越地震(04年)で、緊急医療支援を実施しています。

本件に関するお問合せは

担当: 飯沢

(認定) 特定非営利活動法人 シェア=国際保健協力市民の会 〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル5F
TEL: 03-5807-7581 FAX: 03-3837-2151 E-mail: info@share.or.jp URL: http://share.or.jp